

Applied Economics Intensive 2018: University of Edinburgh

鵜澤 新

今回、このエディンバラ大学でのサマースクールはとても参加する価値があったと感じている。現在、帰国して2ヶ月が経っているが、未だ「エディンバラロス」というものが抜けきれない、それほど充実した1ヶ月であった。。
期末試験が終わり、数日後にスコットランドへ向かった。私は羽田からカタールを経由しエディンバラ空港へ到着した。とても長いフライトであったので疲れていたが、そんな中スーツケースが紛失してしまった。空港内に知り合いもいなかったのも一人で空港の係員の方に取り合って手続きを行った。初めてのことで、しかも英語コミュニケーションを取らなければならなかったのもとても困惑したが、今から思えば+αの貴重な経験になったと思う。

サマースクールという名の通り、今回は旅行ではなく勉強がメインであったので平日は授業+課題となかなか忙しかったが、学校終わりには一緒に参加した仲間とともにエディンバラの古き町を歩き回ったり買い物をしたりパブで飲み明かしたり、また週末にはハイランドツアーや伝統的ダンス、ロンドンへの旅行など、毎日がとても充実していたように思う。

ホストファミリーにはとても親切にもてなしていただいた。自分もホストファミリーも音楽の趣味があったのでそういった話で盛り上がったのは非常に楽しかったし、また伝統料理も頂けたので嬉しかった。

今回のプログラムでは渡航前までには想像もつかなかったぐらい様々な経験をすることができ、今までで一番と言っていいほど濃密な1ヶ月を過ごせたと思う。このプログラムを終えて、さまざまな機会を見送らずに積極的に参加

することの大事さに気づくことができた。来年入ってくる後輩たちには是非ともこのサマースクールを勧めたいと思う。



山崎 優樹

まず初めに、ぼくはこの短期留学プログラムを通して多くの事を学べました。それらをイギリスでの生活や経験、現地での英語学習から学んだことの2つに分けて書きたいと思います。

一つ目にイギリスで生活して経験したことについてです。ヨーロッパに行ったことのなかった自分にとって、なにもかもが新しい事ですべてが楽しかったですが、特に食文化は日本と大きく違うなあと感じました。米を1か月間まったく口にしない生活は多少きつかったですが、ジャガイモやパン主食のイギリスのご飯にも満足していました。また、コーヒーや紅茶がとてもおいしかったのは嬉しかったです。イギリスでのサッカー観戦もとても思い出深い経験の一つです。ぼくはサッカーが好きなので友達と一緒に、休日などを利用してニューカッスルとマンチェスターに行ってプレミアリーグの観戦をしました。さらにホームステイの経験もとても貴重なものでした。高校生のころからホームステイプログラムに興味がありましたが、そのころは部活などがありかなわず、大学生になったらやろうと決めていました。実際ホームステイ中は常に英語で最初は全然聞き取れない状態でしたが、日に日に耳が英語の慣れリスニングができるようになるのを実感できました。文化の違う国の一般家庭での生活はすばらしい経験になりました。

二つ目に現地での英語学習から学んだことについてです。日本での英語学習と違うなと思ったのは、より実践的、日常的な英語を多く学べるという事です。日本で習う英語は形式にうるさく、その点イギリスでは使う英語、使わない英語を知れたなと思います。

今回の留学を通していろいろな経験ができ、外国への興味がより強くなりました。





Mone Orikuki

私はエディンバラ生活を通して普段では学ぶことのできない数多くのことを学ぶことができたと思います。今回は大きく二つに分けて述べたいと思います。まず一つ目は、仲間と一か月間を通してともに学ぶ大切さ。二つ目は、まったく違った文化を理解することの難しさです。

まず最初に一つ目の仲間と一か月間を通してともに学ぶ大切さについて述べたいと思います。はじめてみんな集まった時、私にはとても深い友達もおらず、むしろ知らない人がたくさんいて、とてもびっくりしました。そしてそれと同時に一か月間も一緒にやっていくことができるのかととても不安になっていました。しかし今考えてみると、そんな不安は本当に無駄で、自分たちの知らない土地で過ごすメンバーと仲良くなったのは一瞬でした。夜遅くまでみんなでお話をしたり、朝早くおきて朝日の出をみながら自分の夢を語ったりと、普段の日本の生活では恥ずかしくてできないような会話を、エディンバラにいるからこそたくさん話せました。また、同じような海外好きな人たちがたくさん集まっているので、将来の夢について話したり、今後の留学についての考えについて話すときはとても参考になりました。一か月間を通してとても良い友に出会えたと思います。

そして二つ目は、まったく違った文化を理解することの難しさについて述べたいと思います。私はエディンバラについた当初、靴を脱げと言われてたり、自分の家での生活と全く違う生活リズムを教えられたり、と焦ることがたくさんありました。自分の創造していた海外生活と全く違うものだったので、こんなことでやっていけるのかと何度も焦りました。また、何度かそれによってホストマザーに怒られることもありました。そのたびに異国の文化を理解することの難しさを感じましたが、最終的には理解が深まっており、努力をしてよか

ったな、と思いました。

数々の経験を通して私にとって最高の思い出になりました。



松尾 太地

自分なりに帰国後、エディンバラで過ごしたこの八月を振り返って、自分がこのプログラムの中で得た財産は何だろうかと考えたときに、人とのつながり、ということが思い浮かびました。私自身はヨーロッパに行くのは初めてで、他にも海外に行くのは初めてだという人もいる中で、同じ学部の同期たちとともにカルチャーショックを経験し、苦楽をともにした経験は代えがたい物になりました。現地でも大学内や、パブなどで素敵な人にたくさん出会うことが出来、自分とは全く異なるバックグラウンドを持つ人々と交流したことは、自分の視野を更に広げてくれました。特に、エディンバラ大学のメンターの学生の二人には学内のみならずプライベートでもおすすめの場所に連れて行ってもらったり一緒に踊ったりとお世話になりました。一般に大学生活というのは高校に比べ人間関係は広がりますが、同時に希薄になりがちだと思います。そんな中で、大まかに言えば海外で何かしらの学びを得たいというある程度似た目的意識を共有して、一ヶ月間同じ場所で同じ時を過ごした友人が出来たということは、私のこれからの大学生活を更に面白く、有意義なものにしてくれると確信しています。このような素晴らしい経験をさせてもらえる場を整えてくださった横浜国立大学の教職員の方々、多くのことを学ばせていただいたエディンバラ大学の先生方やメンターの二人、エディンバラで関わったすべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。このかけがえのない経験を胸にこれからも、未知の世界を恐れず人生を楽しんでいきたいと思っています。



本田 美羽

エディンバラでの1か月間の生活は、私にとってとても新鮮で刺激的な日々だった。高校の時に海外研修でシンガポールに約1週間滞在したことがあるが、あくまで企業訪問、学校訪問がメインの活動だったため、外国で1つの学校に一定期間通うことや、ホームステイは初めての経験だった。

初めてのホームステイは、自分のつたない英語が通じるか、ホストファミリーと問題なく生活することができるかなど、渡航前は不安を抱えていたが、ホストマザーは最大限私の英語を聞き取る努力をしてくれて、また、難しい単語は避けてゆっくり話してくれるなど、とても優しい方だった。家もヨーロッパ風の内装のとても素敵な家で、かわいらしくて広い部屋を貸してくれたので、快適な生活を送ることができた。食事に関しては、一般的なイギリス料理のイメージもあり、味は期待していなかったが、食べられないほど口にあわないということもなく、十分すぎるくらいの量を出してくれた。ただ、日本の家庭料理ほどバラエティーに富んでいるわけではなく、パスタやジャガイモをメインにした食事が多かった。

エディンバラ大学での生活は、日本人のみのクラスでの授業ということで、現地の学生とほとんど関わりを持てなかったことは残念だった。しかし、授業や課外活動でサポートしてくれたMentorの2人とは、仲良くなれて楽しい時間を過ごすことができた。授業を通して、特に英語でのプレゼンテーションに自信を持てるようになった。授業で学んだグラフを説明する際の様々な言い方や、接続詞を意識的に使い、論理的にプレゼンテーションすることができた。

放課後には、さまざまな観光スポットに行ったり、買い物をしながら街並みを楽しむことができた。この放課後の時間でエディンバラという街の魅力を存分に味わうことができた。いつかまたエディンバラを訪れたいと強く思う。





常松 恵帆

今まで旅行でも海外に行ったことがなく、初めての海外経験だったが、エディンバラでの1か月間は本当に素晴らしいものだった。第一に、海外に行くとき心配な治安と食事に悩むことがなかった。事前の安全対策講座で海外の恐ろしさを感じていたが、実際にエディンバラに着いてみると、あまり身の危険を感じることはなかった。夜も9時くらいまで明るい。そしてホストマザーの食事もレストランやスーパーで買ったものもとてもおいしかった。エディンバラの水は日本と近い軟水寄りであることもよかった。

そして、エディンバラの街はすべてが美しかった。「町全体が世界遺産に登録されている」という言葉を体感した。歴史を感じさせる建物が立ち並び、大学付近からもエディンバラ城が見える。アーサーズシートという丘から街を一望した景色は忘れられない。どこで写真を撮っても、まるで絵の中、魔法の国の中のようになる。また8月のエディンバラはFringe Festival, International Festivalという二つの芸術のお祭りの真っ最中で街に音楽が溢れていた。スコットランドの伝統的な楽器バグパイプの演奏を毎日帰り道で聞いた。それに加え、ほとんどの美術館博物館の入場料が無料であるため、何か所も訪れた。絵画はもちろん建物自体の内部の美しさに感動した。

さらにエディンバラで出会った人々はとても親切で優しかった。ホストマザーは私のつたない英語にも関わらず、毎日にこやかに会話に混ぜてくださったし、同じ家に泊まっているほかの留学生とも仲良くなってたくさん話げできた。エディンバラ大学で担当してくださったケイト先生、バーバラ先生はたくさんの英語を話す機会とフィードバックをくれた。クラスのメンダーさんは授業のときだけでなく、昼食を一緒に食べてくれて、放課後一緒にダンスレッスンに行ってくれた。

この素晴らしい機会を与えてもらえて、本当に感謝している。この経験を次の行動につなげていきたい。また海外に行きたい。



上條 樹俊

エディンバラ留学を振り返ってまず第一に思うことは感謝である。まずこの機会を与えてくれた経済学部への感謝、そして留学をしたいと相談したときすぐに了承し、費用を負担してくれた両親への感謝、また留学プログラムがスタートし学生の支援をしてくれたマッコーレーや宮崎先生、エディンバラ大学のケイトやバーバラをはじめとした先生達に感謝の気持ちでいっぱいである。1年次にこのような素晴らしい経験ができたことは非常に贅沢なことだったと感じていて、本当に参加することができてよかったと思う。

話を大きく変えて、ここから私はあえて一つの後悔について書こうと思う。もちろんエディンバラに留学したことの総括としてはマイナス部分よりもプラスのほうが多く、もしまた入学時からやり直せるとしても、もう一度このプログラムには参加すると思う。ただこのエッセイを書くことで反省し次に生かすことができればと思うのである。

休日の過ごし方について私は非常にもったいないことをしてしまった気がする。最後までエディンバラで完結してしまい、ロンドンなど観光地に行かなかったのだ。確かに飛行機や電車を予約し行くのは億劫なことであるのだが、非常に英語の勉強になる上、良い経験にもなることであったのもっと下調べをして計画を立てておくべきだった。確かに下調べといってもエディンバラ大学のスケジュールについてあまり知らなかった私たちに事細かに事前に予約や計画を立てるのは困難だったが、それでもイギリス内で自分の行きたい場所について調べておくことや交通網について調べておくことはできた。実際多くの友達は様々な観光地に足を運んでいて休日を謳歌していた。だから自分に足りなかったのは現地で自ら下調べをして行動に移すといった行動力であったのだと思

う。もしまたこのような留学の機会があれば、ハングリー精神に基づきもっと活発的に行動をしたいと思う。



中林 洸太

私がサマーククールを通して一番印象深かったことは現地の人との交流です。日本では味わい難い「人に頼らざるを得ない状況」に窮して感じた人の温かさ、そして同い年の現地学生と話し分かった彼らの熱意やビジョン。そのどれもが自分にとっては刺激的で、英語をより一層使えるようになりたいというモチベーションに繋がりました。

また、現地の風土・文化も記憶に鮮明です。エディンバラ市は中世の趣を現代にも色濃く反映していて、過去と現代とが交錯している都市です。500年以上前に建てられた大聖堂に今も人々が祈りを捧げに訪れる様子を見て、そこに日本とは異なり過去を反映しながらイマを生きるスコットランドの価値観の一端に触れることが出来ました。また留学中は fringe や international festival などのお祭りで日本人に限らず多くの観光客がエディンバラを訪れており、各観光地での彼らとのちょっとしたやり取りも「一期一会」を感じられて良い思い出となりました。

この語学研修を通じ私が考えたこと、並びに伝えたいことは「英語はあくまでツール」「人と関わり、人のために行動することの楽しさ・素晴らしさ」です。

前者について、日本人以外の学生と話していると、彼らはたとえ英語が拙くとも自分が伝えたいことや成し遂げたいビジョンがしっかりしていたため堂々と会話をしていました。対して自分たちはそれらが無かったり、英語に自信が持てない等と言ったりして態度が曖昧だったように思えます。こうした違いは本質的に「自分という存在を理解し、良くしようと努力しているのか」という問題に帰着される気がします。エディンバラではこういった小難しい内容についても考える時間が十分にあったので自身の哲学を深める契機になりました。

後者は言わずもがな、より幅広い層の人と関わることで人間の本質の一つ、「関わること」の大切さに気付きました。これを今後のビジョンの基軸として、夢に向かって取り組んでいこうと思います。

大屋 拓人

私は英語が大の苦手で、海外に行くのも今回が初めてであった。そのため、行く前はとても不安だったが、今では行ってよかったと心底感じている。私と同じような状況で参加することが不安な人に向けて書きたいと思う。

授業：エディンバラでの授業はすべて英語で行われ、発言の機会が与えられることも多くあった。最初は緊張していたが、次第に慣れて授業を楽しむ余裕もできた。先生は優しく、授業はゲーム形式など楽しいものが多いので、行く前から身構える必要はない。

ホームステイ：私のホストファミリーはとても親切で、料理もおいしく、快適な生活を送ることができた。最初の方は緊張して会話することに必死だったが、徐々に慣れてきて会話を楽しむ余裕もできた。英語ができなくても頑張って話せば意外と通じることが分かり、英語を話すことへの抵抗が減ったのがとてもよかった。

観光：エディンバラの街並みは美しく、歩いているだけでとても楽しかった。夏に行われるフェスティバルの雰囲気を味わうこともできた。また土日はグラスゴーに行ったり、プレミアリーグの試合を見に行ったりとエディンバラ以外の場所を楽しむこともできた。当たり前だが、日本とは街並みや雰囲気が全く異なり、新鮮で面白かった。

私はエディンバラのあと、一人でロンドンに観光に行った。自分一人でチケットを取ったり、道を尋ねたりしなければならなかったが、どうにかなった。こ

れは間違いなくエディンバラで英語を使い外国の人々とコミュニケーションをとる経験をしたからだと思う。エディンバラに行って、英語を話すことへの抵抗が減り、多少の自信をつけることができた。海外に行ったことのない人や英語に苦手意識がある人にこそ、このプログラムをおすすめしたいと思う。



Ryoya Hayabuchi

Applied Economics Intensive によるイギリスのエジンバラ大学への短期留学は私の人生で初めての海外でした。一緒に行く仲間の中に仲の良い友達はおらず、また仲間の中で一番英語が苦手であり、更に一人きりでホームステイするということがあって、私の緊張はそれはそれは大変なものでした。飛行機での乗り物酔いもあって着いた頃にはとても気分が悪かったことを覚えています。

ホームステイファミリーとのコミュニケーションは私の重大な課題の一つでした。英語を聞く・話すことは昔からずっと苦手としており、会話ができるかとても不安でした。ところが、ステイマザーのキャロルは私に対してとても優しくしてくれました。私の拙い英語に熱心に耳を傾け、私の理解力のなさや誤解によりミスをするたびに私に優しく教えてくれました。また、私の誕生日に友達と分けれるくらいのケーキを買ってきてくれるなど、私を実の孫のように気遣ってくれました。彼女には、日本語を使用しても伝えきれないほど感謝しています。彼女のおかげで日本語が通じない人と会話することに対する抵抗が減った気がします。

エジンバラ大学での授業や、放課後の自由時間は私の想像よりもずっと楽しいものでした。友人たちとはすぐに打ち解けることができ、先生方のおかげで日本の大学の授業よりもずっと楽しく学ぶことができました。先生方には楽しい授業をしてくださったことに感謝するとともに、少し迷惑をかけてしまったことを反省しています。

初めての海外という貴重な経験を、仲良くなれた友人たちと過ごせたことにとても感謝しています。



落合 浩太

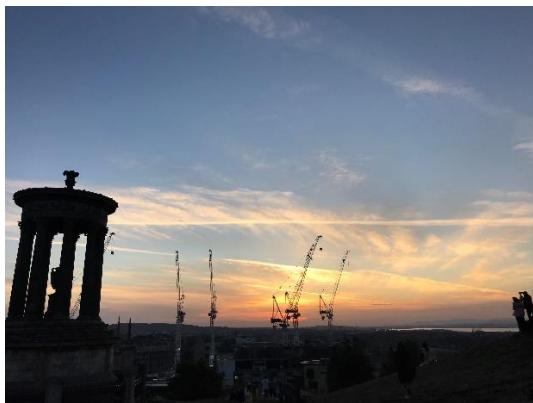
使える英語力の向上、異国の価値観に触れてみたい、外から日本を見てみたい。このような理由から私は大学に入ったら留学に行こうと決心していた。そして、入学してすぐに募集をかけられていたエディンバラへの留学に応募した。エディンバラでの1ヶ月間の生活はとても充実していて、新たな考え方を得て自らの視野を広げるととても良いきっかけとなった。

エディンバラでの生活は、初めてみる海外の街並みや文化などがとても新鮮で新たな発見を得続けることができる日々であった。授業やホストファミリーとの交流を英語で行うだけでなく、街の移動や外食、観光などどんなときも英語に囲まれた生活ができたことは日本ではできない貴重な経験であった。英語力の乏しい私にとって、生活するだけでも疲れてしまいなかなか慣れなかったが厳しい環境に自らを置くことで英語力だけでなく、コミュニケーションスキルも向上することができたと思う。

大学の授業では、グループワークが多く英語を話す機会に恵まれていた。私は英語を話すことに慣れていなかったため、会話に参加することに苦労し自らの能力の低さを痛感したが、とにかくなんでもいいから話そうと積極的に参加することができた。語彙力をベースに瞬間的な英作文力、リスニング力など使える英語力をこれから鍛えていきたいという課題を発見できた。

ホストファミリーとの生活ではイタリア出身のホストファザーの英語の聞き取りに苦しんだ。しかし、結果として、リスニング力を高めることができ最終週にはホストファザーと日本の経済について議論することもできた。ホストファミリーはとても優しく、私の拙い英語を理解してくれて楽しく交流ができとても感謝している。

この1ヶ月間の留学は私にとっては大変なものではあったが、日々新たな発見を得ることができ刺激的で充実した日々であった。留学を通して自らの能力の低さを痛感でき、異文化に触れ自文化を再認識することができた。これからは、長期留学やさらに先の将来に向け新たなプランを立てて目標に向けて励んでいきたい。



三品 芽生

「海外の大学で勉強するとは、どのようなものなのだろう。」という興味と、大学二年次に長期留学を考えていたので、私はこのプログラムに応募した。というのも、“アカデミック英語を本格的に学習したい人にお勧め”と本プログラムの募集要項に書いてあり、長期に渡る留学の前段階には最適なのではないかと思ったからである。海外経験は、幼少期に一度海外旅行に行ったことがあるだけであり、英語も誇れるほどは得意ではなかったため渡航前は少なからずの不安はあったものの、エジンバラでの一か月間は、素晴らしいものとなった。

授業は、英単語の発音や日常会話などの基礎的なことから、将来留学した時や、海外で働いたときに役に立ちそうな経済学に関連する内容まで、幅広く学習した。また、授業のない土日を使って、スコットランド北部に位置するハイランドや、ロンドンなどに行き、様々な文化に触れることが出来た。受け入れ先では、ホストマザーにエジンバラの歴史や、彼女の人生観など様々な分野の会話をして頂き、その中で私の意見を求められることがきっかけで、自分自身について深く考えるようになった。また、私が朝早くに出かけた時にはサンドイッチ、私の誕生日にはケーキと手作りのブレスレットをプレゼントしてくれたり、快適に暮らすことが出来た。

何よりも長い歴史と伝統を誇るエジンバラ大学のキャンパスは非常に趣があり、たった一か月でもここの学生の一員となれたことが喜ばしかった。大学図書館に何度か訪れたが、現地では夏休みにも関わらず、多くの学生が勉強をしに来ており、熱心な態度に強く感銘を受けた。メンター以外の学生とも、もう少し関わりたかった。

そして、このコースが終了したとき、「次は長期間、海外の大学で、より高度で専門的な経済学を様々な国の学生たちと学びたい」という思いが一層高まった。更なる目標に向かって、頑張っていこうと思う。



Reina Nakayama

一か月間のホームステイとエディンバラ大学での授業プログラムは、私にとってとても貴重な体験であり、有意義なものとなりました。

私は、ホームステイのおかげでスピーキングの力がついたように感じます。自分が言いたいことを言えないと困るという状況に置かれることで、わからない言葉があっても、自分の語彙力だけで説明して伝えられるようになりました。ホストファミリーはとても親切で、スコットランドや日本の話などで盛り上がりました。

エディンバラ大学での授業は、先生が自ら私たちのためにテキストを作ってくださり、大切なところをピックアップした授業を受けることができたり、十二人ずつの二クラスに分かれることで、一人ひとりを見てくださったりする良い環境でした。テキストを使って、ネイティブの先生からしか学べないアクセントのつけ方や発音の仕方をじっくり学びました。また、政治的なことを学ぶ機会や、イギリスの文化も授業で知ることができました。教室で先生の授業を聞くだけでなく、博物館や国会議事堂に行くことで、さらに授業が面白く感じられました。授業にはメンターという現地の大学に通う生徒が授業のサポートをしてくださり、年齢の近い身近な存在がいることで質問がしやすく、休憩中でのおしゃべりでは大学の様子を聞くことができてよかったです。

私がこのプログラムで特に伸びたと感じるのはライティングのスキルです。接続詞のバリエーションや同義語の知識が増えたことで、自分の書く文章が豊かになりました。また、大学でも使える形式ばった文章を書くことができるようになったことで、今まで自分が書いてきた文章からレベルアップしたように感じます。



平野 飛鳥

大学では実際に海外で使える実践的な英語力を身につけたいという思いが強かった。

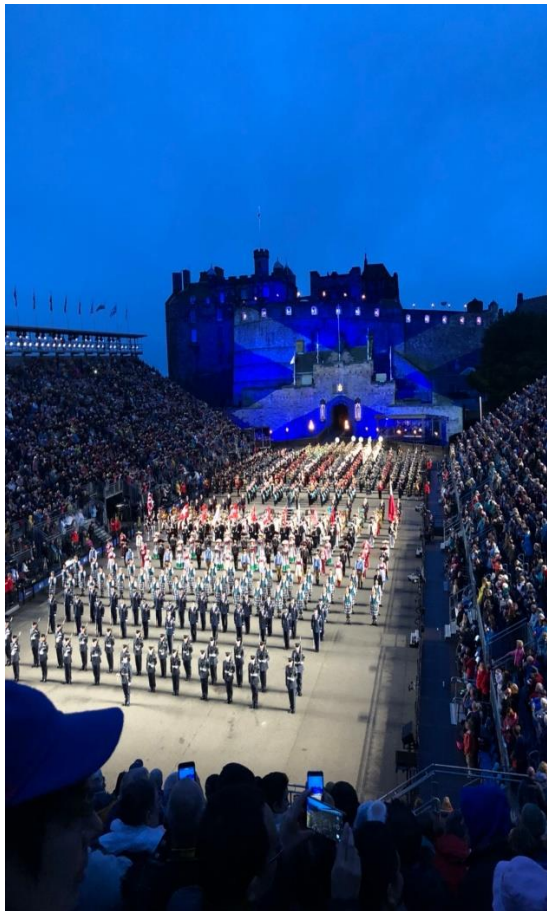
3 か月間や半年間、1 年間のプログラムだと、留年の恐れがあるため申し込みづらかったが、これは 1 か月間で夏休みに行くため、普段の授業に影響がないえに夏休みに単位が稼げるので最高だと思った。

エディンバラでの授業は不安に思ってたほど難しくなく、落ち着いてうけれた。エッセイやプレゼンテーションなどのアウトプットがとても多く日に日に自分の力がついてくるのを感じることができた。その中で学術的な文章のフォーマットやプレゼンテーションのスタイルも学ぶことができた。

授業のほかにも、ホストファミリーを始めとする英語を母語として使う人たちの中で生活できたことも、英語力の向上につながった。発音やリスニング能力が向上したのはもちろんだが、呼びかけや返事、挨拶などの日常で使う会話表現をたくさん知ることができた。これは教科書では学べないが貴重な体験だと思った。

観光もたくさんできた。滞在している 1 か月間がほぼずっとエディンバラフリンジという祭り期間だったこともありかんこうするものであふれていた。なかでも世界各国の軍隊が更新を披露するミリタリータトゥーわ圧巻だった。

週末は授業もないため遠出することができた。グラスゴーはとてもアーティスティックな街で視覚的に楽しめる場所だった。マンチェスターに行ったときは念願だったプレミアリーグを観戦した。本場イングランドのサッカーは選手のレベルはもちろんサポーターの熱気も段違いでその場にいるだけでとても楽しかった。試合後にハリー・ケインとツーショットが撮れるという奇跡があり最高だった。



李 東旭

今回に参加したプログラムは最初日にオリエンテーションとエディンバラという都市に関しての案内してもらうことで始まった。最初からエディンバラという都市について知ることができたため、その後にスコットランドやエディンバラについて学ぶときに大きく役になった。

イギリスの中でもスコットランドの経済や文化などのについて学ぶことができたところが非常に良かった。学校内で学ぶ内容も印象的だったが、このプログラムの目的は教室で学んだ内容を基に街で人々と会い、話すことではないかと考えられるほどフェスティバルに参加することもでき、英語を日常で使わせることにあるのではないかと思われた。その中でも個人的にはフェスティバルという賑やかなところがエディンバラを選んだ理由を説明しているのではないかと思ほど印象的であり、海外から来た人々の活力も感じることもできたと思われる。

また、ホームステイでイギリスの家庭を体験できたのも大きな意味があった。大学の寮で泊まると様々な国から来た人との話ができるのは価値観を広げることのできることであったが、イギリス人との対話で普通に話しながら得る知識や価値観の違いをわかる機会にはなれないため、ホームステイで泊まったのが非常によかったところであった。

最後に自らプレゼンテーションのテーマを決め、作ったのは現地調査を含め、英語を多く使ってやることであったためこのプログラムを通して価値のあったことに間違いないだろう。英語でするプレゼンテーションであるからこそ緊張しやすく、日本語とは違って表現しにくいところもあったが、このことこそ日頃では考えられない英語での表現ができたためより自分を発展させる機会になったのではないかと考えられる。





Misaki Kobayashi

大学に入学し、留学に関する冊子を眺めていると、本プログラムの参加学生募集と同時に、「英語初級者や、academic Englishを一から学びたい人におすすめ」という一文が目に入った。英語力に自信はなかったが、留学も大学生のうちにはできないからと決心して応募をきめた。

週1回のミーティングを経て、イギリス・エディンバラへと飛んだ。

エディンバラでは基本的にホームステイであった。渡航前は非常に不安であったし、初めて会う前はとても緊張した。しかし会ってみるととてもやさしい方で安心した。ホームステイではホストに洗濯や風呂、食事のルールなどを聞く必要があったが、うまく伝えるのは非常に難しかった。ホストは私が言葉に詰まったときには「Don't worry.」と励ましてくれたり、緊張してなかなか話せない私に積極的に話しかけてくれた。そのおかげもあり、最初はホストの家で流れていたBBCニュースが全く理解できなかったが、最後のほうにはある程度理解することができるようになった。

エディンバラ大学での授業は横国生のみで受けるのだが、皆英語能力がとても高く、危機感を覚えた。しかし彼らの存在があったからこそ、私はより一層全力で授業に取り組めたし、志の高い友を作ることができた。

また、バスを間違えたり、迷子になったりとアクシデントも多々発生したが、それらを乗り越えたこともまた英語力の成長につながったと今は感じている。

私はエディンバラで非常に多くのことを学んだが、特に「勇気」を学んだと感じる。帰国後、バイト先に英語しか話せない客が来店した。以前なら見て見ぬふりをしていたが、気が付くと私は彼に話しかけていた。彼は買い物が終わると笑顔で私に「Thank you」と言ってくれた。英語を学ぶことの楽しさをひしひしと感じた。帰国後も英語力を向上させ、「国際人」となりたい。





杉本 梨花

私にとってエディンバラでのサマースクールは初めての海外に長期滞在する経験でした。もともと留学に興味はあったのであまり悩むことなく応募したのですが、このプログラムに参加するにあたって、私は2つのことに挑戦しようと考えました。

1つ目は、ホストファミリーと仲良くなることです。エディンバラ大での授業の内容にももちろん期待していましたが、同じ教室に横国生がたくさんいるので、ホームステイ先での生活の方がある意味留学らしいのではないかと思います。出発前、1人で日本語が通じない家庭に行くことが一番の不安でした。ですが、ホストファミリーは留学生を受け入れ慣れていて横国生も2人目ということで、フレンドリーだったので、たくさん話すことができて本当に良かったです。英語の文法や語彙の知識よりも、コミュニケーションを取りたい、仲良くなりたいという意志を示すことが鍵だったと感じました。

2つ目は、前から行ってみたいと思っていたロンドンに行くことです。このプログラムが現地集合だったので、解散後1週間滞在する計画を立てました。ですが飛行機は片道のためのチケットが割高だと知り、行きもロンドン経由に変更しました。成田からマレーシア経由の飛行機でロンドンまで行き、深夜バスでエディンバラまで行くことになり、結局丸2日かかりました。計画やチケットの購入を全部自分でやったので大変でしたが、海外でも1人で行動出来るのだという自信に繋がりました。

この2つの挑戦によって、私は海外や外国人に対する「なんとなく怖い」といった気持ちを払拭できたと感じるので、非常に良い経験になったと思います。一緒に参加した横国生や先生がいるからこそ挑戦できたと思うので、初めての海外長期滞在がこのプログラムで良かったです。



西川 杏樹

私は、今年の8月とても貴重な体験をしました。出発の初日、正直言うと全く実感が湧きませんでした。しかし、現地に着き、それぞれのホームステイ先の家に向かうタクシーでは、近くにつれ今まで一緒にいた友達もいなくなり、とても不安になり、少しずつ留学の実感が湧き始めました。ホストファミリーは温かく私を迎えてくれました。後から、ホストマザーに言われましたが、自分では思っていなくても、最初の一週間はとても緊張していたそうです。でもきっとそれが普通で、今では帰国してもホストファミリーと連絡を取っています。私はこのエディンバラのプログラムに参加するまで、外国人と長い会話をした事ありませんでした。そのため、自分の英語がちゃんと通じるか自信がありませんでした。しかし、現地の方々はとても優しく、私が話し終わるまで聞いてくれたり、分からなかったらもう一度ゆっくり言ってくれたり、最後にはもっと話したいと思うほどになっていました。授業は、もちろん英語だけで行われました。先生達もとてもフレンドリーで、課題は大変だったけれど、毎日楽しく勉強が出来たと思います。授業の中で、大学に行くだけでなく、美術館など様々なところに連れて行ってもらいました。今まで、曖昧にしか理解していなかったイギリスの政治、例えばスコットランド独立問題や BREXIT などや特産品などポスター発表などを通して学ぶ事が出来ました。文化についても日本と異なる事がたくさんあり、毎日が新しいことばかりで楽しかったです。今回のサマースクールに参加したことで、多くの発見があり、英語へのモチベーションもぐんと上がりました。この機会を無駄にせず、頑張っていきたいです。





白熊 柊也

大学に入ってから海外に行きたいという強い思いがあり、このプログラムに参加しました。当初は、ホームステイということもあり、ホストマザーとちゃんと会話できるかどうかとても不安でしたが、エディンバラに行ってしまうとコミュニケーションをとるしかなかったので、なんとか話すことができたと思います。1カ月という長いようで短い期間でしたが、とても貴重な経験をすることができました。このプログラムに参加して良かったです。何よりもこのプログラムは海外に行ったことがない人向けであったので、多少の不安はありましたが、参加しようと思えることができました。参加に悩んでましたが、今ではあの時参加を決めて良かったと思います。

同学年の日本人学生と一緒に行くということで、不安があったら相談することができ、心強い存在でした。それに加え、将来、留学しようと考えている人が多くてとても刺激を受けました。中には高校生のうちに留学を経験している人もいて、英語が上手で、僕も英語の勉強を頑張ろうと思いました。また、週一回、マッコーレー先生からご指導をいただきつつ、エディンバラの文化や日本の文化を英語で討論する時間が設けられていて、しっかりとした事前準備をし、渡航することができました。

エディンバラでは平日は毎日、エディンバラ大学に行き、現地のネイティブの先生から英語を教わりました。英語の授業を英語で教わるというのは初めての経験であり、授業内容も濃くて、英語の勉強を本格的にすることができました。週末はエディンバラの町を観光することもできました。ちょうどフェスティバルの時期だったため、町もにぎやかで楽しかったです。また、ホームステイ先には僕の他に色々な国の留学生がいて、国際交流も経験できました。日本にいて

は決して味わうことのできない貴重な経験をすることができました。このプログラムに参加して本当に良かったです。





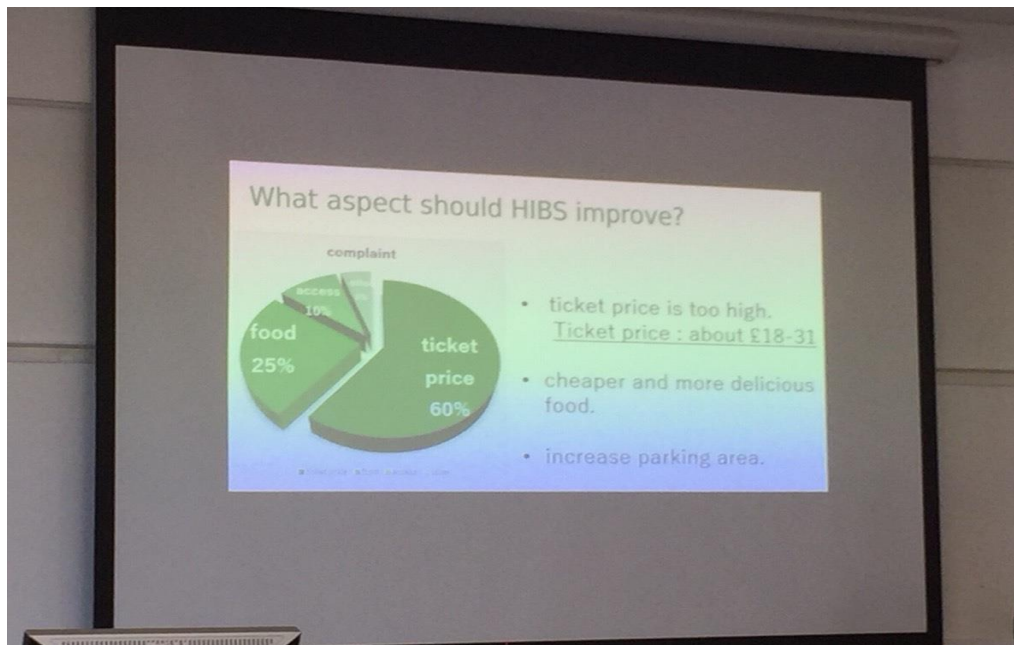
石井 大介

今回、私は幸運にもエディンバラサマースクールに参加することができました。ここでは私がなぜこのプログラムに参加したのか、このプログラムで一番印象に残ったことを綴りたいと思います。

まずは参加した理由についてであるが、一言で言うと自分の知らない世界に飛び込んでみたかったからである。大学入学当初、私は自己価値のなさを憂いていた。いろいろな本を読んだり、インターネットを使ったりしながら、たくさんの素晴らしい偉業をなし遂げた人たちについて知りながら、その生き方を学ぼうとしていました。自分の中ではいろいろなことを調べたつもりでしたが、やはり自分に何ができるのかという問いの答えは見つかりませんでした。そこで自分のやりたいことを見つけることを目標に、大学生活を送ろうと考えました。そんな思いを抱いている中でふと見つけたこのプログラムはとても興味深かったのです。自分の知らない世界に飛び込めば、自分のやりたいことが見つかるのではないかと考えたということです。

次に印象に残ったことについて話していきたいと思います。この旅は、行ききの飛行機から驚くことの連続でした。初めての海外だったので、戸惑うことやつらいと思うことがたくさんありました。そんな中で一番印象に残ったことは毎日の授業でした。本当に授業のすべてが思い出です。普段の授業もみんなで作り上げたポスタープレゼンテーションもとても緊張したファイナルプレゼンテーションもすべてが楽しかったです。どれも本気で取り組みました。本気でできる環境でした。周りのみんなも本気だから必然的にそうなります。そんなメンバーが私は大好きです。自分のやりたいことを見つけるということを目指して頑張ってきた今回のプログラムですが、残念ながら具体的なものは見つかりませんで

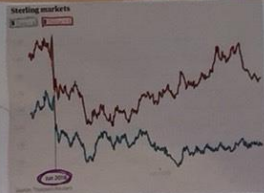
した。それでも出会えた仲間たち、そしてこの旅での体験は確かに自分の財産になりました。



Brexit and Financial Services

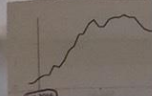
Scotland is the **second** financial hub in the UK outside of London

Positive effects of Brexit



Consumer prices Index

FTSE 100 index



The benefit for British exporters from the weak pound would help increase UK economy

Negative effects of Brexit

The concern for the UK and Scotland is that more activities and jobs are moved offshore.

Conclusion

Fintech is one of the best way to make financial services more efficient. Making relationship with **Developing** country like India can boost the UK's economy.

萩原 朋哉

僕はこのプログラムを通して様々な経験をし、得たものがたくさんありました。

まずはエジンバラ大学で英語の授業を受けて英語、そしてスコットランドとイギリスについてより深く理解できたことがとてもいい経験でした。授業では今まで意識していなかった発音の違いなどの基礎から英語でのプレゼンの仕方とその技術、そして経済について学びました。発音はとても難しく顎が疲れましたが発音が上達している実感もありました。プレゼンについてはこれからの大学生活、そして社会人になってからも役立つ技術を多く知ることができました。また、経済用語の英単語やブレグジット後のイギリス経済についての理解も深まりました。

次にスコットランドとイギリス内をたくさん観光でき、異国の様々な面に触れられたことがいい経験になりました。僕はこのプログラム中にエジンバラ以外にグラスゴー、ハイランド、ニューカッスルそしてマンチェスターに行くことができました。それぞれに町の特徴があり歩いていてとても楽しかったです。エジンバラ中心地は地図を見なくても大体わかるくらい歩き回り、様々な観光名所に行くことができました。そしてマンチェスターでは念願のプレミアリーグを見ることができました。

そして最後に僕にとって英語に囲まれた環境で生活できたことが一番の経験でした。ホストとの会話をはじめ、道がわからない時や駅で切符を買う時も英語でやり取りしなければなりませんでした。そんな中で僕は以前と比べて伝える力が向上したと思います。英語力のみですべてを伝えることは不可能だったのでジェスチャーを使うなど工夫して何とか言いたいことを伝えていました。それは僕自身の自信にもつながりました。

このプログラムに参加して僕は英語力、自信、思い出、そして新しい友達など多くのものを得ることができました。大学生のうちにこのような経験ができて良かったです。





西藤 悠馬

僕がこのサマースクールで得たことは、語学力ではありません。寧ろ語学力よりも、人生への考え方をスコットランド人、イングランド人のホストファミリーや1ヶ月間を共に過ごした友人から学ぶことが出来たという意味で有意義な1ヶ月となったと思います。人生への考え方というのは言葉では表すことが難しいのですが、まとめると「人生は思っていたより自由である」ということに行き着くと思います。

僕は渡航前、海外の、しかも人様の家に泊めてもらうのだからどういう風に生活すれば良いのだろうと不安でした。しかし、その不安は僕がスコットランドに降り立ち、ホストファミリーに会ってまず言われた「ここでは、鍵を閉める、朝食は7時半、夕食は18時、このルールさえ分かっていたら好きに生活していいわ。スコットランドを楽しんでね。」という言葉ですぐに払拭されました。最初の日に肩の力が良い意味で抜けました。最低限のルールを守ればあとは自己責任で何をしても良い。この考え方は僕を含め日本人はルールやマニュアルにないことはやらない方が無難だ、というものと反対のアプローチだと思いました。

スコットランドに到着後、平日は実践的な英語の授業を受けに学校に行き、残りの多くの余暇は日の出や日の入りを観にアーサーズシートに登ったり、インターネットで航空券を買ってロンドンに行ったり、ニューカッスルでサッカーの試合を観たりと本当に好きなようにスコットランド、イングランドの地で遊びました。このような経験はいきなり一人でするのは難しい事かもしれません。だからこそ、今回のサマースクールで気の置けない友人たちと本当に色々なことに挑戦することが出来てよかったと思います。余談ですが、朝夕のアーサーズシートは行くべきです。感動します。

スコットランドで語学力とこの人生への考え方を得られたことにより、僕は自分の人生に少し自身が持てるようになり、ますます様々なことに挑戦しようという意欲が沸くようになりました。



新 井 諭

私は自分を変えるという目標を掲げてこのプログラムに参加しました。というのも以前から私は何事も他人任せで自分からあれをしよう、これをしようなどと考えたことがなく主体性がないと言われていました。大学生になった今、変わらなければと考えていた時このプログラムの募集を見て応募しようと思ったのです。

エディンバラでの初めの数日間は慣れるのに必死で、正直この先一ヶ月過ごすことに不安しかなく日本がすぐ恋しくなっていました。数日後にはエディンバラでの生活に慣れ、学び、楽しもうという余裕が生まれました。すぐ慣れたのにはホストファミリーの存在が大きかったと思います。私のホストは夕食後にティータイムを設けており、他の留学生やホストファミリーと会話する機会がありました。SNS の話やスコットランドの経済の話、他の留学生の母国、イタリア、スペインの話、ダイエットの話、様々なことを話しました。折り紙を紹介した際には興味津々で話を聞いてくれてとても嬉しかったことを覚えています。ずっと言われてきた、英語で会話するときには失敗を恐れてはいけない、という言葉が肌で感じ積極的に会話に参加できるようになりました。

また何か困ったことがあっても自分で伝えないと何も始まらないということをも身に染みてわかった一ヶ月でもありました。家で信じられない量の夕食が出た時にはもう食べられないということを伝えないといけなかったし、携帯電話をレストランに忘れたときには忘れた旨を伝えないと相手にはなにも伝わらない。自分から進んでことを起こさないといけない状況になって始めて主体的に行動しないといけないと感じました。

私はこのプログラムに参加して本当に良かったと思います。英語やスコットランドのこと支えてくれる周りの人の大切さ、そして多くの仲間を得ること

ができました。このプログラムに参加しようか迷っている人がいたら是非とも
おすすめしたいと思う。

